

ドイツ語（初級 A） 第 2 回 発音記号とアルファベット／綴りと発音

範囲：教科書扉、S.6-7

I 発音記号とアルファベット

■ 発音記号

◇ 辞書や教科書を利用する都合上、発音記号は知っておく必要がある。

* 我々が使う教科書は、発音記号を習得済みのものとして扱っている。これは、かつては高校の英語で教えていたためであるが、現在では知らない受講生の方が多いだろう。よって、ここで最小限の読み方を教えておく。

** 前回の授業第 1 回では、ガンダンス回ということ considering、ドイツ語にカタカナで振り仮名をふった。もちろん、本来は外国語学習で振り仮名を使うのはよくないことであり、今後は発音記号に慣れてもらいたい。

- ・発音記号は通常、大括弧[]のなかに書かれる。
- ・発音記号の詳しい説明は、独和辞典の冒頭などに載っていることが多い。
 - * 音声学で用いられる表は、念のために本配付資料 S.8 に「参考」として掲載しておいた。もっとも、これはドイツ語の授業であって音声学の授業ではないため、「〇〇音」といった名称は覚えなくてよい。
- ・発音記号はあくまでも目安であり、実際の発音と一致しないこともある。ドイツ語の場合、特に[r]の音に注意（後述）。

◇ **母音**の発音記号は、

- ・ [a], [i]/[ɪ], [u]/[ʊ], [e], [o] : ローマ字読みでよい。
- ・ 以下、注意が必要なもの。

発音記号	発音方法
[ə]	[e]を弱く発音する。ただし、英語の[e]よりはっきり「エ」と聞こえる。
[ɛ]	[e]（要するに「エ」）に近いが、[e]よりも口の開きが大きい。
[ɔ]	[o]とほぼ同じと考えてよい。
[y]/[ʏ]	口をすぼめて「ユ」のように発音。英語でアルファベット u を読むときの音。
[ø]/[œ]	「口をオのかたちにしてエと発音する」と考える（これが最も難しい）。 * 日本語にカナ転写するときはエ段で書かれる場合が多い。Goethe が「ゲーテ」になるなど。
[aɪ] [ɔʏ] [aʊ]	いずれも 二重母音 。[aɪ]は「アイ」、 [ɔʏ]は「オイ」、 [aʊ]は「アウ」より「アオ」に近い。
[:]	この発音記号がついている母音は、 長母音 にする。 * 例えば[a:]は「アー」と伸ばして発音する。

* 英語と異なり、ドイツ語ではフランス語由来の外来語についてはフランス語風の発音をするときがある。特に鼻母音。これについては、授業でそうした単語が登場したとき、あらためて説明する。

◇ **子音**の発音記号は、

- ・ [p], [b], [t], [d], [k], [g], [m], [n], [l], [f], [v], [s], [z], [h] : ローマ字読みでよい。
* [l]の発音は英語と同じ。下記の[r]との区別に気をつけること。
- ・ 以下、注意が必要なもの。

発音記号	発音方法
[ŋ]	いわゆる鼻濁音。英語の-ing のときと同じ。
[j]	ヤ行（ヤユヨ）。 * ジャ行（ジャジジュジェジョ）ではないことに注意。
[ʃ]	シャ行（シャシシュシェシヨ）。
[ʦ]	ツァ行（ツァツイツツェツオ）。
[tʃ]	チャ行（チャチチュチェチヨ）。 * 以上は英語にも存在。ここからドイツ語ではじめて登場する発音記号を紹介す。重点的に覚えてほしい。
[pf]	敢えてカタカナ書きすると「プフ」だが、母音を入れずに一気に発音する。
[ç]	「ヒ」に近いが、もちろん母音は入れずに発音する。
[x]	喉の奥に挟まった小骨などを取ろうとしてとして一瞬だけ激しく息を吐き出すときの音（言葉での説明が難しいので、教室で実演してみる）。
[r]	「 口蓋のふるえ音 」（これも言葉での説明が難しいので、実際に実演してみる）。 * 実は、ドイツ語の[r]音には、「口蓋のふるえ音」のほか、「舌先のふるえ音（いわゆる巻き舌）」、「舌先のはじき音」、「口蓋の摩擦音」の 4 種類があり、どれを採用してもよい。ただし、現代ドイツ語では「口蓋のふるえ音」が使われることが多い。 ** [r]に関しては、なぜ発音記号なのに実際の発音と一対一対応しないのか、と不思議に思った人がいるかもしれない。その疑問は正当で、実は音声学では以上 4 つの音をすべて別扱いしてそれぞれ別の発音記号を当てている。初修レベルのドイツ語では、面倒を避けるために便宜上すべて[r]を当てているだけである。正式には本配付資料 S.8 の「参考」を参照。

■ アルファベット（教科書扉）

◇ Das Alfabet の発音は、[das alfabe:t]。もちろん「アルファベット」のドイツ語読み。

* das は定冠詞。the と同じ。詳しくは教科書第 2 課で扱う。

◇ ドイツ語のアルファベットは英語のものと基本的に同じで、

- ・ A/a と O/o と U/u に**ウムラウト**（Umlaut）付の文字（それぞれ **Ä/ä, Ö/ö, Ü/ü**）が存在する
- ・ 小文字のみ **ß**（**エスツェット**、Eszett）が存在する

点だけが異なる。

◇ ß は、直前に長母音か二重母音が来る場合のみ使われ、それ以外では ss と綴る。ただし、スイスではすべて ss と綴る。（⇒教科書 S. 18）

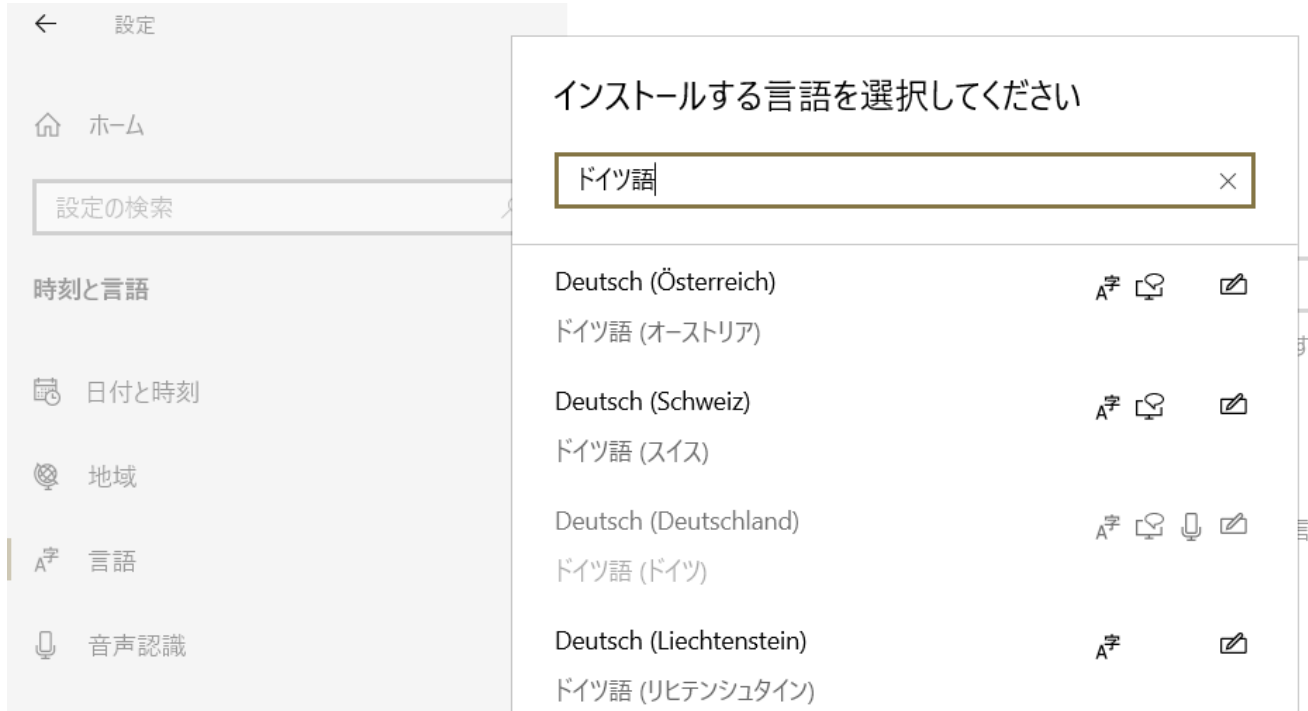
◇ 各文字の名称を覚えてもらいたい。今後の授業では、アルファベットについては、すべて英語読みではなくドイツ語読みを採用する。

■ ドイツ語の特殊文字を端末でタイプする方法 (補足)

◇ 各種の端末 (パソコン、スマートフォン) でドイツ語の文字を打鍵する方法も紹介しておく。

◇ パソコンの場合は、

- ・OSによって方法が異なる。例えば、Windows 10 では、左下のスタートボタンから「設定>時刻と言語>言語>優先する言語を追加する」の順で選択していき、「インストールする言語を選択してください」の画面で「ドイツ語 (ドイツ)」を選ぶ。



- ・すると、タスクバー右のインジケータの言語アイコンをクリックしてデフォルトのキーボードをドイツ語キーボードに変換できるようになる。言語の切り替えのショートカットキーは「Shift+左 Alt」。



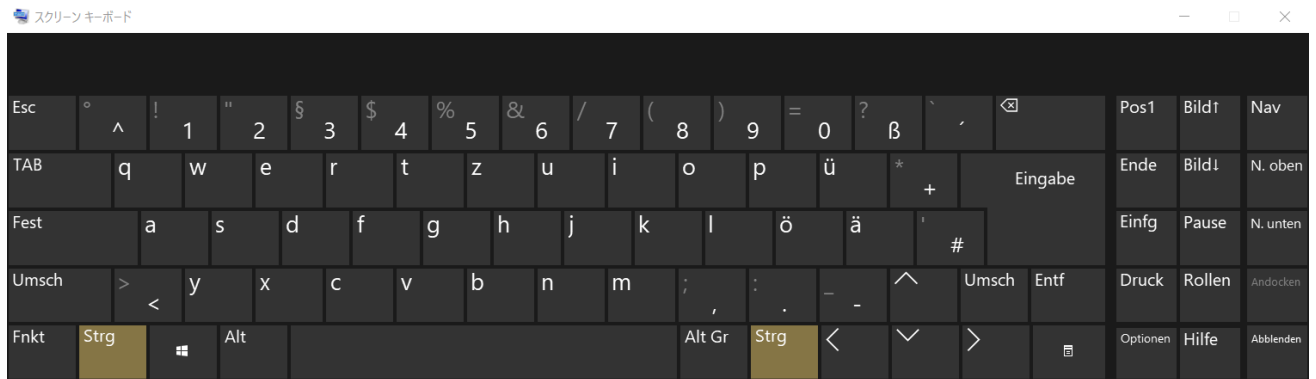
・ドイツ語のキーボードは以下の通り。通常のものとはほとんど同じだが、

- 「;」のキー → ä
- 「;」のキー → ö
- 「@」のキー → ü
- 「-」のキー → ß

に変化しており、

- 通常のキーボードとは y と z の位置が入れ替わっている

ことに注意。



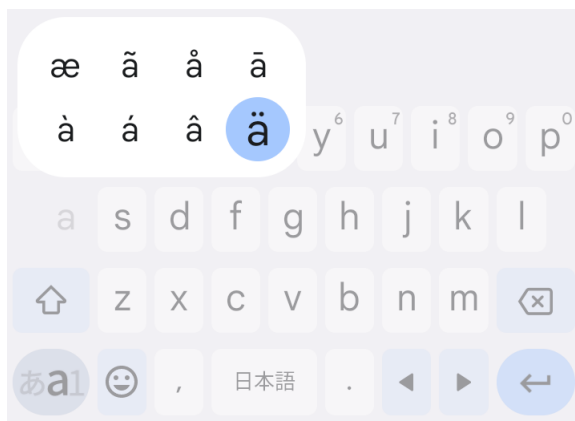
* このスクリーンキーボードでは各キーの名称もドイツ語になっている（Enter → Eingabe など）が、機能としては普通のキーボードと同じだから普段通りに使えばよい。

・ほかの OS の場合は、「OS 名 ドイツ語 キーボード」などで Google 検索して調べるとよい。

* 現在、Windows 11 の使用者が最大人数と思われるが、教員の使用している Windows 10 で説明した。ご了承願いたい。

◇ スマートフォンやタブレットの場合は、

・入力を英字に切り替え、a を長押しすると、ä をはじめとする各言語の a に関連する特殊文字が選択できる。ö は o で、ü は u で、ß は s で同じことをすればよい。



◇ ドイツ語の特殊文字がどうしても打てない状況の場合（タイプライターの時代など）、ä=ae、ö=oe、ü=ue、ß=ss での代用が可能とされていた。現在でもメールなどでの文字化け対策で使うことがある。もっとも、この授業においてパソコンで作成した答案を提出したりするときは、こちらの代替方法は使わず、必ずここで説明した打ち方を練習してもらいたい。

* 今後、LETUS を通じて課題をオンラインで提出してもらう場合がある。そのときは、正しい方法でドイツ語の特殊文字を打ってほしい。これまで ß（エスツェット）を ß（ベータ）で代用してくるような事例があったが、もちろんやめてもらいたい。

II ドイツ語の綴りと発音の関係

■ ドイツ語の発音の大原則 (S.6)

名詞は語頭を大文字。
 基本はローマ字読み (これから教科書 S.6-7 で学習する規則以外)。
 アクセントは原則として第一音節。
 アクセントのある母音のあと、
 ・子音が1つならその母音は長母音。
 ・子音が2つなら短母音。

◇ ドイツ語では、綴りと発音はほぼ一対一対応すると考えてよい。

* 英語の場合、*name* や *apple* に含まれる各 *a* は、発音が異なる。ドイツ語では外来語を除いて基本的にこういった事態は生じないので、規則さえ覚えてしまえば初見の単語でも難なく発音できるメリットがある。

◇ まず、教科書 S.6-7 で解説されている規則を覚えてもらいたい。これらに該当する綴りがあれば、それを適用する。それ以外のところでは、ローマ字読みにすればよい。

・ Name (名詞、「名前」) は、S.6-7 の規則が当てはまらないので、すべてローマ字読みにする。その際、上記の大原則から、アクセントは第一音節、*a* のあと子音が1つなので *a* は長母音。

・ einmal (副詞、「一回」) は、*ei* に関しては S.6 の規則「*ei* は [ai] と読む」が当てはまるので、それを適用して、それ以外の部分はローマ字読みとする。上記の大原則から、アクセントは第一音節、*ei* は二重母音だから長母音/短母音の別は考えなくてよい。

◇ 個別の規則は、教科書をベースに、本配付資料の以下の記述を補足として覚えてもらいたい。

■ 母音字の発音 (S.6)

◇ *a*, *e*, *i*, *o*, *u* はローマ字読みでよい。aa, ee, oo のように母音字を2つ重ねると長母音になる。

* Bus は *u* のあとに子音1つだが、例外的に *u* は短母音で発音する。

◇ 特に注意が必要なのは、

綴り	発音
ä	[ɛ] (口を広く開けた「エ」)
ö	[ø]/[œ] (口を「オ」のかたちにして「エ」と発音する)
ü, y	[y]/[ʏ] (口をすぼめて「ユ」のように発音)
ei	[ai] (二重母音)
eu, äu	[ɔʏ] (二重母音)
ie	[i:] (「イー」という長母音)
	[ie] (「イエ」に近い) * 実際には教科書の説明とはやや異なり、外来語でなくともとなる場合もある。Ferien (休暇) など。
母音のあとの h	母音字を伸ばして長母音にせよ、という意味。

■ 子音字の発音 (S.7)

◇ 子音字の発音のうち特に注意してもらいたいのは、ch と r/er と sp/st である。もちろん、ほかもなるべく覚えてほしい。

◇ 特に注意が必要なものは、

綴り	発音
b, d, g	語末、音節末、別の子音の直前では無声音 ([p]、[t]、[k])。 * Obst は o のあとに子音が 2 つだが、例外的に o は長母音で発音する。
	それ以外では有声音 ([b]、[d]、[g])。
ig	通常は[ɪç] (後述の ich などと同じ音)。
	あとに母音が続く場合は[ig]と有声音化する。Königin (女王) など。
ch	a、u、o、au のあとでは[x] (例の難しい「喉の奥に挟まった小骨などを取ろうとしてとして一瞬だけ激しく息を吐き出すときの音」)。
	それ以外では[ç] (「ヒ」に近い音、むろん母音は入らない)。
	ただし、chs となると無条件で[ks]。
j	ヤ行の発音 ([j])。 * 要するに、発音記号の[j]はドイツ語の j と同じ発音である。
pf	[pf]の発音。
qu	[kv]の発音。謎の (?) [v]音が入ることに注意。 * bequem は第二音節にアクセント。前綴り be-はアクセントを持たないため。前綴りについてはのちに学習する。 (⇒教科書 S.34) ** Qualität は第三音節にアクセント。-ät で終わる語は外来語なので、規則に従わない。
r	基本形は喉の奥を震わせる[r] (口蓋のふるえ音)。 * 水でうがいをするのを想定して発音するとよい。水で喉を潤わせて練習するのもよい。
	語末や母音のあとでは軽く母音化して[a] (「ア」) になることが多い。ihr (人称代名詞、所有代名詞)、Uhr (時計)、Irrtum (誤り) など。 * 正式には、この音には[r]という発音記号を使う。
er	[ea] (「エア」) に近い発音の場合。人称代名詞 er、定冠詞 der、形容詞 schwer (重い) など。アルファベートの R/r の名称も同様。 * 発音記号では[er]ないし[e:r]と表記されるが、実際には[ea]と考えてよい。上に同じく、正式には[er]。
	[a:] (「アー」) に近い発音の場合。上記以外の単語 (Mutter など) のとき。 * 発音記号では[ər]のように表記されるが、実際には[a:]と考えてよい。上に同じく、正式には[er]。
s	母音の前では濁る有声音 ([z])。
	それ以外では濁らない無声音 ([s])。
ss, ß	必ず[s]。前述のように、使い分けに関してはのちに扱う。 (⇒教科書 S.18)
sch	[ʃ] (「シ」に近いが、むろん母音はなし) の発音。英語の綴字 sh と同じ。

綴り	発音
sp, st	基本的に語頭では[sɔ̃p]や[st]。
	それ以外では[sp]や[st]
	語頭でも外来語なら[sɔ̃p]や[st]。Steak（ステーキ）など。 * これには例外もあるので注意。例外が登場した場合、その都度説明する。
th, dt	単に[t]の発音。 * Theater は第二音節に、Theorie は第三音節にアクセント。th はほぼギリシャ語からの外来語に登場する綴りである。
ti	外来語の場合、[tsi]（「ツィ」）の音になることがある。 * Situation も Patient も最後の音節にアクセント。いずれも外来語のため。 ** ならない場合もあり。Demokratie など。
tsch	[ç]（「チ」に近いが、むろん母音はなし）の発音。英語の綴字 ch と同じ。
z, ds, ts, tz	どれも[t͡s]の発音。 * z が[z]の発音ではないことに注意。
v	基本的に[f]の発音。ただし、外来語では[v]のままのこともある。
w	[v]の発音。 * 以上、v が[v]ではなく、w が[w]ではないことに注意。ドイツ語には[w]の音、要するにワ行はない。
x	必ず[k͡s]の発音。英語のように濁ることはない。 * 英語の examination の x は濁るが、ドイツ語の Examen の x は濁らない（今は同じ）。

練習 1

授業第 1 回配付資料 S.7-8 の「1. 数詞」と「2. 挨拶」につき、今日の授業で学んだ綴りと発音の規則を念頭に置きながら、あらためて発音せよ。

1. eins 2. zwei 3. drei 4. vier 5. fünf 6. sechs 7. sieben 8. acht 9. neun 10. zehn
11. elf 12. zwölf 13. Guten Morgen! 14. Guten Tag! 15. Guten Abend! 16. Gute Nacht!
17. Auf Wiedersehen! 18. Tschüs! 19. Danke Schön! 20. Bitte Schön! 21. Wie geht es Ihnen?
22. Danke, gut.

練習 2

以下のドイツ語の単語を発音せよ。

1. Mann（男） 2. Wette（賭博） 3. Kino（映画館） 4. Gott（神） 5. du（君、英語の you）
6. Nähe（近く） 7. können（～できる、英語の can） 8. Glück（幸福） 9. liegen（横たわる）
10. nein（いいえ） 11. Euphonium（ユーフォニアム） 12. lieben（愛する） 13. halb（半分の）
14. Mond（月） 15. Krieg（戦争） 16. König（王） 17. Koch（コック） 18. echt（純粋な）
19. Achse（軸） 20. jung（若い） 21. Pfeil（矢） 22. Quelle（泉） 23. Reich（国）
24. Lektor（講師） 25. werden（なる、英語の become） 26. Lehrer（教師） 27. Sohn（息子）
28. Weisheit（知恵） 29. Fuß（足） 30. dass（英語の接続詞 that） 31. schon（すでに）
32. Spät（遅い） 33. Staat（国家） 34. Polizist（警察官） 35. Thema（テーマ）

36. Tschaikowski（チャイコフスキー） 37. Vetter（従兄弟） 38. Wald（森）
39. Xenophobie（排外主義） 40. zusammen（一緒に）

参考 発音記号の理屈

(1) 母音

舌	前後		前舌		中舌	奥舌
高低	開口度\唇の形		非円唇	円唇	非円唇	円唇
高	狭	閉	i: i	y: y		u: u
中高		開	ɪ	ʏ		ʊ
中低	半狭	閉	e: e	ø: ø	ə	o: o
		開	ɛ: ɛ	œ		ɔ
低	広		a a:			

(2) 子音

調音様式\調音位置		両唇音	唇歯音	歯～ 歯茎音	硬口蓋 歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	口蓋垂音	声門音
障害音	無声破裂音	p		t			k		
	有声破裂音	b		d			g		
鳴音	鼻音	m		n			ŋ		
	流音	側音		l					
		ふるえ音			r			ʀ	
	はじき音			r			ʀ		
障害音	無声摩擦音		f	s	ʃ	ç	x		h
	有声摩擦音		v	z	(ʒ)	j		ʁ	
	無声破擦音	pf		ts	tʃ				
	有声破擦音				(dʒ)				

* 辞書の巻頭などによく書いてある発音記号の表を再現すると、このようになる。もちろん、この場は音声学ではなく初修ドイツ語の授業であるため、こうした理屈をいちいち覚える必要はない。

** 教科書や授業では[r]で統一してある発音は、正式には、[r]（舌先のふるえ音）、[ʀ]（口蓋のふるえ音）、[ʀ]（舌先のはじき音）、[ʁ]（口蓋の摩擦音）の4種類に分かれるわけである。すでに説明した通り、現代ドイツ語では口蓋のふるえ音（[ʀ]）を用いるのが基本なので、この授業でもそれを踏襲する。

連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>